



第92号

# 居合道だより

Chapter 1

# はじめに

ソチで開催された第22回冬期オリンピックは、過去最大の国、地域の参加を得て、スポーツの祭典らしく盛大に行われ、先月23日無事ホットでクールな17日間の幕を閉じた。

開会式セレモニーで五輪の雪の結晶のうち一輪が開かなかったのはご愛敬だったが、世界一広大な土地ロシアのはるかな歴史、伝統の芸術、強大な国力を表現した、さすがと思わせる壮大な開会式だった。



# はじめに



毎回思うことだが、4年に一度しか巡ってこないその日のために、技術、体力そして精神力を鍛え続けてきたアスリートたちに心から敬意を表したい。

選手たちは今回も素晴らしいパフォーマンス、様々な人間模様を展開し、見る者に夢と感動を与えてくれた。

スキージャンプ・ラージヒルで個人銀メダルの葛西紀明選手は、七大会連続出場で41歳、海外からはレジェンド（伝説）とまで称賛される男は、世界大会での活躍とは裏腹に五輪では怪我や悲運に見舞われ続け、今までに獲得した五輪メダルは、94年リレハンメルの悲劇といわれた団体銀メダルのみで、98年長野で国民を熱狂の渦に巻き込んだ団体金メダルのメンバーには名前がない。

19歳から22年間も世界の第一線で活躍し、七度も五輪のメダルに挑戦し続けてきた男の原動力とは、一体

なんだったのか、まさに「不撓不屈」計り知れない男の意地と根性を思い知らされる。

その彼が、団体で銅メダルを取ったとき、本当に嬉しそうに「若い人にメダルを取らせたかった。」と言った言葉が、なんともさわやかで心温まる思いがした。

今回の五輪で日本人唯一の金メダルを獲得した、男子フィギュアスケートの羽生結弦選手には心からの賛辞を送りたい。19歳での制覇は史上二番目の若さ、国内男子では初、そしてアジアからも初めての頂点であった。

まるで少女漫画から抜け出てきたように華奢で長身、さわやかで愛くるしい笑顔、まさにシンデレラボーイ。

その彼のやさしい表情からはうかがい知れない強い言葉がいくつも出てきた。

金メダルのかかったフリー冒頭のサルコーで転倒したが、ひるまずに大技に挑戦し続け見事に結果を出し

た。インタビューで「金メダルが取れて言うのもなんだがミスしたことがすごく悔しい。」と言った。

彼は仙台の出身で、東日本大震災は地元のリンクで被災した。一時は避難所で暮らし稽古もままならなかったが、彼の滑りを励みにしてくれる人たちの存在が、大きな原動力になった。「金を取れたのは被災者の思いを背負ってやってきたから。」と。

応援してくれた被災者はじめ皆さん方への恩返しは「金メダリストになれたからこそ、ここがスタートじゃないかな。」とも。

女子フィギュアスケートの浅田真央さんも今回最も印象に残った一人である。

応援する側にとっては本当に残念な結果だったが、そのことでかえって彼女の素晴らしさを発見したような気がする。

日本中の期待を一身に背負った彼女は、あまりにも生真面目すぎる責任感に縛られたせいも、ショートプログラムで致命的なミスを冒してしまう。

しかし一夜明けた彼女は見違えるように立ち直り、フリーで8回の三回転ジャンプをすべて成功させ、自己最高点をたたき出した。

「前夜は本当に悩み、かつてないほど色々考えたが、今まで応援してくれたり支えてくれた人のためにも、また一生懸命練習してきた自分のためにも、結果を気にせず持てる力を十分出し切ろう。自分は出来る。」と、思っただけで臨んだそうである。

見事にフリーを演じきった直後の涙と、次の日「今回の五輪は本当に満足している。」と、言い切った彼女の満面の笑みが忘れられない。

彼女は結果よりも自分の持てる力を発揮できたことの方を選んだのである。

その後のインタビューでは「失敗しても強い気持ちで次にのぞんでいけば、必ず良い結果になる。今回のことは必ず自分のこれからの人生に生きる。」と。

六年後の東京五輪の組織委員会会長であり元総理の「あの子は肝心なときに必ずこける。」のことを聞かれたとき、「私は気にしていない。あの人のほうが少し後悔されているのでは。」とさりりと受け流した態度は、実に見事であった。

ちなみに「アサダ」とはアラブ語では「雌ライオン」だそうである。

まさに堂々とした威厳にあふれている。

筆者は常々、フィギュアスケートと居合道が一番共通点が多いと感じている。

フィギュアスケートでは技術点と芸術点とがあり、それぞれに加点と減点がある。ジャンプやステップ、スピンだけではなくリズム、メリハリ、軸の定まり

方、テーマの表現力等全体の流れが大きな要素になるように感じる。

居合道においてはもちろん正しい技前、心構え、武道としての合理的な動き（理合）、残心、品位、風格等であるが、そのための緩急、強弱、序破急、静と動、全体に漂う修業の深さ等はフィギュアスケートと共通しているように思えてくる。

そして双方とも試合は正確無比の器械測定ではなく、感情を有する人間が判定するのであるが、なによりも自分自身との戦いがすべてなのである。

羽生選手や浅田選手を見ていると、アスリートとしてだけでなく、若いのになんと人間として成熟していることかと感動さえ覚える。

ひとつのことを長く真摯に一生懸命取り組んでいけば、おのずと人間としても成長していくということなのだろうか。

そこには「人間形成の道である。」という言葉は、もはや不要とさえ思えてくる。

*Chapter 2*

# 主な出来事 その他



## 主な出来事

2月23日（日） 選手強化錬成会 若松武道場

## 3・4月の予定

3月2日（日） 居合道審査会 福岡武道館

代表者会議 同会議室

次期理事会 同会議室

3月21日（祝） 第40回北九州居合道大会 北九州市総合体育館

4月12日（土） 教士称号筆記試験 福岡市

4月13日（日） 第44回福岡県剣道連盟武道祭

福岡武道館

## その他

4月19日（土）～20日（日） 宇和島居合道錬成会、居合道大会が開催されますが久しぶりに県武道祭と日程が重ならないので会員が多数参加されます。皆様のご健闘を祈ります。

（本文中写真は全て去年の北九州居合道大会です。）

